

赤石山脈に端を発し180キロの急流を流れ落ちる大井川。河川に沿って走る大井川鉄道は、かつては地域をつなぐ大動脈でした。産業の変化、交通網の変化という時代の流れの中、つなぐ役割は残しながらも、地域との関わりは大きく変わっていき「無人駅」という空間が生まれました。

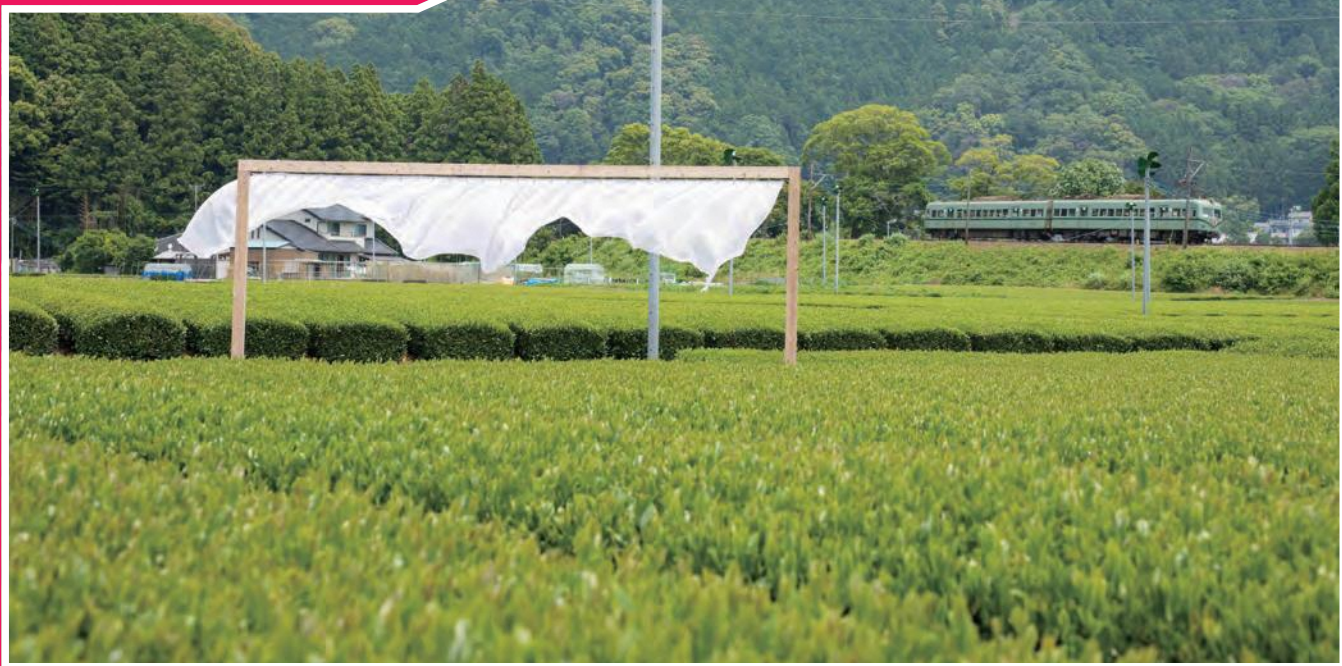
私たちは2018年に始まる、この芸術祭において、二つの無人を考えた。一つは「地方の無人化」です。当地をはじめ日本の地方の多くは過疎の進行とともに無人化へと歩んでいます。二つは「都市の無人化」です。人間は都市に集中していきませんが、巨大な情報化と効率化によりこれまで人間が担っていた様々な場所が加速度的に無人化しています。地方と都市と反する局面において同時に無人化が進む現代において「人が減っていく」、その象徴的な場所が「無人駅」だと考えます。

また、私たちはもう一つの無人を経験しました。「コロナウイルスによる無人化」です。新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、世界の在り方は大きく変化しました。会いたい人に自由に会いに行くことも禁じられ、会話が失われ、世界中の至る場所が無人化していききました。

しかし、無人駅を入口として広がる集落には、昔からの暮らし、生活文化が今も息づき、畑仕事や隣近所の集まりを大切に豊かに生きて暮らす人々が確かに存在します。この人々は生活と芸術を軽快に行き来し、生活と芸術が地続きにつながる場所に暮らしています。それは私たちが、無くしかけてしまった、「記憶」「風景」「営み」です。

人はなぜ生きるのか。コロナ禍の今、その問いはより鮮明に浮かび上がります。UNMANNED (アンマンド) は、無人の、という意味。現代社会が忘れていた豊かさの意味や人間の底力の息吹を「無人と呼ばれる場所」からアートを道しるべに感じてください。そして、あなたの目でアートに彩られた新しい日常を発見してください。

UNMANNED 無人駅の芸術祭/大井川
総合プロデューサー&ディレクター
NPO法人クロスメディアしまだ
大石歩真・兒玉絵美



主催：NPO法人クロスメディアしまだ 実行：アーツカウンシルしまだ
協力：島田市、川根町、大井川鉄道株式会社
協賛：福武財団「アートによる地域復興戦略」、島田市アートによる地域づくり推進事業実行部

www.unmanned.jp

無人駅がひらくと地域がひらく



UNMANNED

無人駅の芸術祭 / 大井川

Unmanned Station Art Festival, OIGAWA 2022

2022年2月25日(金) - 3月21日(月) / 25日間

大井川鉄道無人駅周辺及び川越し街道

(静岡県島田市・川根本町)

参加アーティスト
ii(アイアイ) / 上野雄次 / 形狩りの衆 / 木村健世 / 小鷹拓郎 / 小山真徳 / さとうりさ / しでかすなかまたち / 杉原信幸 × 中村綾花 / TAKAGI KAORU / 夏池篤 + 山本直 / ヒデミニシダ / 森繁哉 / ゆるかわふう + 原正彦 / カ五山 (加藤カ、渡辺五、山崎真)

協賛：福武財団「アートによる地域復興戦略」、島田市アートによる地域づくり推進事業実行部

www.unmanned.jp

アートカウンシルしまだ ARTS COUNCIL SHIZUOKA

大井川をことほぎ、ひらく

スタンプラリーで無人駅巡りのススメ

アートに彩られた無人駅フィールドを発見してください。
スタンプラリーでスタンプを全て集めた方には参加賞をお渡しします。また、抽選で10名様にプレゼントが当たります。

① 小山真徳	② 夏池篤+山本直	③ 小鷹拓郎	④ カ五山	⑤ カ五山
川越し街道	川越し街道	川越し街道 (抜里)	川越し街道	日切
⑥ 上野雄次	⑦ ゆるかわふう+原正彦	⑧ さとうりさ	⑨ TAKAGI KAORU	⑩ ヒデミニシダ
神尾	福用	抜里	抜里	抜里
⑪ 森繁哉	⑫ しでかすなかまたち	⑬ 杉原信幸×中村綾花	⑭ 木村健世	⑮ 形狩りの衆
抜里	抜里	塩郷	下泉	駿河徳山
⑯ ii(アイアイ)	●スタンプラリーでスタンプを全て集めた方は、インフォメーションセンターにてご提出ください。参加賞をお渡しします。 ☞インフォメーションセンター：ぬくりプラザ(島田市川根町抜里320) ※OPEN 10:00~16:00 ※休館日あり			
青部	●抽選で10名様にプレゼントが当たります(プレゼント内容は公式サイトで発表いたします)。 スタンプが押されたパンフレットの自写の画像を添付して、必要事項(住所・お名前・連絡先・当芸術祭の感想)とともに右記までお送り下さい。☞プレゼント応募先：info.unmanned@gmail.com ※プレゼントは、芸術祭会期終了後、順次お送りさせていただきます。当選発表は発送をもって代えさせていただきます。			

交通案内 芸術祭開催エリアは、大井川鉄道無人駅及び周辺となります

車 利 用：東 京 IC → (新東名高速道路約2時間) → 島田金谷 IC → (芸術祭開催エリアへ)
名古屋 IC → (新東名高速道路約2時間) → 島田金谷 IC → (芸術祭開催エリアへ)
※駐車場は「エリアマップ(作品設置駅にて配布、公式サイト)」にてご確認ください。

電 車 利 用：JR 東 京 駅 → (東海道新幹線約1時間) → JR 静岡駅 → (東海道線約30分) → JR 金谷駅
JR 名古屋駅 → (東海道新幹線約1時間) → JR 掛川駅 → (東海道線約15分) → JR 金谷駅
※JR 金谷駅で大井川鉄道へ乗換かレンタカー等 → (芸術祭開催エリアへ)

飛行機利用：就航先→富士山静岡空港 → (直通バス25分) → JR 島田駅 → (東海道線約5分) → JR 金谷駅
※JR 金谷駅で大井川鉄道へ乗換かレンタカー等 → (芸術祭開催エリアへ)

【新型コロナウイルス感染防止対策について】

ご来場される皆さまのご協力をお願いいたします。ご来場、ご鑑賞の際は必ずマスク着用をお願いいたします。手を触れる作品場所にアルコール消毒をさせていただきますのでご使用ください。少しでも体調が悪い方、風邪のような症状のある方はご来場をお控えください。

最新情報は公式サイトから

http://unmanned.jp/
Facebook・Instagram・Twitter で「UNMANNED 無人駅の芸術祭」を検索

お問い合わせ
UNMANNED 無人駅の芸術祭 / 大井川事務局 (NPO法人クロスメディアしまだ)
静岡県島田市之日出町 4-1-1F (C-BASE 内)
TEL: 0547-39-3666
Mail: info.unmanned@gmail.com

アーツカウンシルしまだとは

「アーツカウンシルしまだ」は、まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育、産業など、社会の様々な分野と文化芸術を結び付け、社会課題への対応や地域の活性化を目指す住民主体の創造的な活動を支援します。

「ヌクリ里・図絵
一人々の手による、人々の芸術をつくるプロジェクト—その巻」
森繁哉

民俗・歴史の研究者による土地の調査と連携し、抜里地区に住まう人々の手による芸術「田楽舞踏(抜里歌舞伎)」の創作プロジェクト第1弾。抜里集落の様々な拠点で、ダンスを通して、抜里の人々の生活や民話を描写していく。音楽集団が、古典から現代まで幅広い音楽で構成される抜里歌謡をお囃子で担い、音楽劇のように進行していく。
日時：3月21日(月・祝) 13:00~15:00
集合・解散：大井川鐵道 抜里駅
参加費：おひとり1,000円(高校生以下 無料)
申込：不要・直接現地へ



関連企画「歩き 読み 知る 抜里版風土記」
アーティスト、研究者とともに集落を探索し、潜在するものを掘り起こし、参加者が抜里地区の「地図」を作成していく。ここで展開される「地面歩き」「集落歩き」を、第二弾のプロジェクトで民衆歌舞伎につなげていきます。
日時：3月21日(月・祝) 15:00~17:00 / 場所：大井川鐵道 抜里駅
案内役：森繁哉、星雲一朗(歴史研究者)、早川知子(民俗研究者)
参加費：無料 / 申込：不要・直接現地へ

アーティスト、研究者とともに集落を探索し、潜在するものを掘り起こし、参加者が抜里地区の「地図」を作成していく。ここで展開される「地面歩き」「集落歩き」を、第二弾のプロジェクトで民衆歌舞伎につなげていきます。
日時：3月21日(月・祝) 15:00~17:00 / 場所：大井川鐵道 抜里駅
案内役：森繁哉、星雲一朗(歴史研究者)、早川知子(民俗研究者)
参加費：無料 / 申込：不要・直接現地へ

地蔵まえ4(縫い合わせ)
さとうりさ

昨年度の発表作品が今期開幕中にも目見えます。さとうりさと集落の妖精達(住良)とオンラインを活用しながら協働で作上げた作品が広大な茶畑の中に浮かび上がります。設置も集落の妖精たちが行います。見ることができたらラッキー！
日時：会期中のお天気の良い日
会場：大井川鐵道抜里駅エリアの茶畑



「ホタルのたまごづくり」
ヒデミニシダ

抜里エコボリスが定めるホタルの森づくり。ヒデミニシダと女子美術大学生有志が看板のリニューアルに加え森への道を光で演出する「ホタルのたまご」の制作を行います。完成したたまごはホタルの季節に森への道を照らします。ぜひ一緒に制作しましょう！
※各プログラム詳細は公式HP参照
日時：2月26日(土) / 時間：10:00~12:00(出入り自由)
会場：インフォメーションセンター(ぬくりプラザ) 島田市川根町抜里 320
申込：不要・直接現地へ



「大井川に橋は架けられるのか」
TAKAGI KAORU

わたしたちは川の対岸に行けるのか? 自分で橋をかけた人は、対岸があること、そこから見る景色が違うことを忘れないでいられます。みんなで協力して大井川に一日限りの「橋」をかけるのかの実験をするワークショップ。
日時：3月20日(日) 13:00~16:00 ※雨天中止
場所：抜里エリア 大井川河川敷 / 参加費：無料
持ち物：濡れてもよい恰好、長靴、タオル
対象：5歳から高校生まで / 定員：20名
申込：公式HPより



「アートプラット/大井川」~ぼくらのまちじゅう文化祭~

芸術祭の会期にあわせ、まちじゅうで文化芸術に触れる機会を作ろう!と様々な団体や市民が多彩なプログラムを主催します。公式イベントと合わせ50のプログラムが! 芸術祭と合わせて参加をすれば、もっと深く地域と人とアートに出会えます。作品鑑賞だけではなく、もっといろいろな楽しみ方も合わせて! 各プログラム詳細は公式HP参照

上野雄次

①「川と竹の交響アクション」
上野雄次と日本を代表するデュオの奏者のGoroによる、神尾駅と眼下に望む大井川河川敷を使った音とアクションの壮大なパフォーマンスです。神尾の成り立ちに深く関わる川の精と竹の精に、ふたりのアーティストがむかひあいます。
出演：上野雄次、Goro
日時：3月13日(日) 14:00~15:00 / 場所：大井川鐵道神尾駅
参加費：おとな1,000円、高校生以下 無料 / 申込：不要・直接現地へ

②「花いけ合戦 島田大会」
花いけのトーナメント戦。観客は5分間で花をいけます。観客を魅了させたほうが勝ちというシンプルルール。感性、創造性、そして花をいけたいという思いを競います。手に汗握る真剣勝負をお楽しみください。観客者必至!!
日時：2月26日(土) 13:30~15:30 / 場所：大井川越し街道
参加費：無料 / 申込：不要・直接現地へ(観客者は先着8名)

③「バンブーハウスの花いけパフォーマンス」
地域に群生する竹で茶室に生まれ変わった旧駅舎をつかった花いけパフォーマンス。ザ・みどり探偵団のおもてなしのコラボレーション企画です。
日時：2月27日(日)、3月20日(日) ①10:40~ ②11:40~ ③12:20~ ④13:10~ ⑤14:00~
会場：大井川鐵道 神尾駅



関連企画「ザ・みどり探偵団 ~神さまと菓菓子~」
上野雄次の作品で、お茶と神さまの伝説を楽しむひとときを。お供え物の中で最も大切なお米をおにぎりにし、「天神さま」と呼ばれる神さまがいる梅干しをいれたお茶漬を提供します。(※お茶のあおしま茶師が大井川流域で育った茶葉を厳選)
日時：2月27日(日)、3月13日(日)、3月20日(日)
1日5回開催(各回5席、限定25席) ①10:40~ ②11:40~ ③12:20~ ④13:10~ ⑤14:00~
参加費：500円(ウエルカム緑茶とお茶漬付代)
申込：事前予約か直接会場へ https://reserva.be/eventlabo2018
※3月13日(日)の⑤14:00の実は実施なし



「公開マスクお渡し & トークライブ」
形狩りの衆

今回、ライフマスク素焼バージョンを制作した方々に、それをお渡し。展示したマスクと顔を並べて、校長先生の思いなどご本人から体験談が聞ける気楽なトークショーです。
日時：3月13日(日) 13:00~13:30
会場：川根第一小学校(川根本町徳山100)
参加費：無料 / 申込：不要・直接現地へ



「鹿舞」
杉原信幸×中村綾花

川根本町徳山に伝わる「鹿ん舞」の太古の姿をイメージした鹿の帽子と衣装を纏った杉原信幸が舞います。中村綾花(音)
日時：2月27日(日) 14:00~
会場：石岡家(川根本町久野954・三津岡集落センター南側)
参加費：ドネーション(投げ銭)制 / 申込：不要・直接現地へ



案内人による芸術祭オフィシャルツアー

ガイド付き鑑賞で作品をより深く味わおう! 作品のみどころや成り立ち、地域のことまでガイドします。当日のご参加大歓迎!
日時：①3月5日(土) ②川越し街道編 ③3月12日(土) ④抜里+α編
両日とも、11:30~1時間程度
集合・解散：③川越し街道・川会所 ②大井川鐵道抜里駅 / 申込：不要・直接現地へ



小山真徳

エリア 川越し街道
設置場所 地図② (仲間の宿)

「よそ者」として訪れた土地において普段見出すことのない置き去りにされたものたちに、深い共感を寄せ、声高ではないが、古くから土地に存在する信仰と祝祭の気配を纏いつつ、うらぶれた場所にそれらを描き出す。

作品タイトル 鳥田鶯鴉屋 (しまたとびがらすや)

江戸時代、大井川は幕府によって架橋を認められず、川越し人足によって旅人は対岸へ運ばれた。大井川が増水し川足にされ、舟は対岸の舟屋、島田、金谷、日坂には旅人が滞留し、宿場は大変な賑わいだった。懸命に水流の中を往復した川越し人足たちは、まるで川底を這う装置のようであり、大井川を挟んだ東海道を行き交う旅人は、河原の上空で孤独に弦を描くように、群れなして飛び交うカラスのようである。作家はかつてそこにあったかもしれない想像上の旅館を制作する。

作品イメージ

上野雄次

エリア 神尾駅
設置場所 旧駅舎ホーム

1967年京都府生まれ。1988年偶然出会った勲使河原宏氏の展覧会と「創造行為」という破壊がなければ生まれないという言葉に衝撃を受け、筆道を学び始める。国内の他、インドネシアやタイなどで創作活動を展開。2005年より「はいけい」のラフパフォーマンスを開始。詩人、写真家、ミュージシャン、工芸家等のコラボレーションも多数行っている。モノと素材を選び抜いて活かせることで独自の「はいけい」の世界を築き続けている。創造と破壊を繰り返す予断不測な展開は、各分野から熱烈な支持を得ている。

作品タイトル パンブーハウス／暴走花いけ号の島田バージョン

老朽化した旧駅舎に、地域に群生する竹を横断させた覆屋を設け、お茶室のようなトリップ空間へと変容させる。入口をくぐって竹の通路を通ると、そこには異空間が現れる。正面には神尾山の荒々しい山崩れとトンネルを見送す独特の景観を臨むことができ、非日常の体験を味わうことができる。旧駅舎からホームに至るまでの路地に、割竹をアーチ状に設置し、竹製のトンネルをつくる。トンネルの隙間からは山の青々とした木々や空が見え隠れし、来訪者は心地よく誘導されながらホームへと辿ることができる。ホームの先端近くには、籠の上に編んだ竹製ベンチを設置。そこに身を置いてみると、全体を竹で覆われたこととなり、まるで巣ごもりしているような落ち着いた感覚に包まれる。眼下には大井川の雄大な景色が広がり、特別な体験を持ち帰ることができる。また、会期中の週末ごとにラフパフォーマンスやお茶会など様々な企画が実施される。さらに、上野雄次のアートフェスティバルでは恒例となっている車と一体化しているオブジェ作品「暴走花いけ号の島田バージョン」を制作。東京と島田を行き来し、島田の街を走る路上パフォーマンス的要素も展開する。

作品イメージ

森繁哉

エリア 抜里駅
設置場所 抜里集落

1947年山形県出身。山形県在住。民俗学者、舞踊家、「巫座」代表。東北芸術工科大学教授、田園学舎学長歴任後、作家活動に入る。日本古来の身体技法を現代美術に昇華した数多くの舞台作品で、現代日本の最高の舞踏スタイルを確立したとして、フランス、ドイツなどに招聘される。共演・協力：星組(星新一)／歴史研究者、音楽レーベル「涼音室」主宰、松村知紗／歌手・舞踏家「呪文堂」主宰、澤田邦彦／民謡三味線・ギター奏者、津軽三味線澤田流名歌、早川知子／建築士、民俗研究者ほか

作品タイトル ヌクリ里・図絵
一人々の手による、人々の芸術をつくるプロジェクト—その巻

集落の風土や生活様式から生まれるさまざまな行動・思考というものを、土地の物語を綴ることによって芸術という果実に転化することができないだろうか。民俗(歴史)研究者による土地の調査と連携し、抜里地区に住む人々の手による芸術「田楽舞踏(抜里歌舞伎)」の創作プロジェクトを立ち上げる。それは、舞とお囃子による抜里の物語、「抜里風土記・図絵」である。今年度は、創作第1弾として、抜里集落の「駅」茶畑「裏山」家の庭(作業所)などの拠点で、森繁哉がダンスを通して、抜里の人々の生活を模写していく。音楽集団が、古典から現代まで幅広い音楽で構成される抜里歌謡とお囃子で担い、音楽劇のように進んでいく。さらに、抜里の人が語り部、妻で人、演じ手、呼ぶ人、配る人、売る人など、さまざまな形で参加し、集落は「演劇市場」のような様相を呈することとなる。かつて川筋に発生した歌舞伎の現代版として、川の民による芸能・芸術の立ち上げを試みる。

作品イメージ

杉原信幸 × 中村綾花

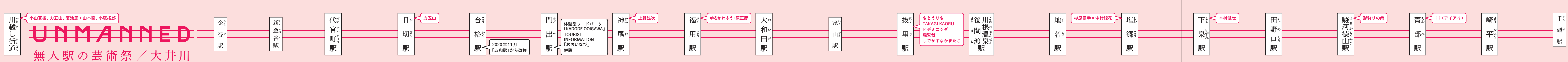
エリア 塩郷駅
設置場所 三津間集落・石間家

生活と結びつく手仕事を行う帽子作家の中村綾花と美術家の杉原信幸のユニット。土地の記憶の欠片を繋ぎ合わせることで、土地に宿っている形を造形化し、その創作行為から生まれる身体による即興の舞による創作行為。

作品タイトル 鹿人帽と鹿舞

川根本町の徳山には鹿の顔の帽子を被って舞う鹿人舞がある。川根本町の狩猟会の協力を仰ぎ、鹿の毛皮を縫い、鹿の毛皮の帽子と、鹿皮の衣装を制作。空間には集めた古い着物を張りめぐらせ祭りの舞台のような空間を演出する。会期中に「鹿の祭」の鳴き声の音源に合わせて即興の鹿舞を呼び覚ます。古い時代の鹿人舞の記憶を呼び覚ます。※2/27(日) 14:00〜パフォーマンス開催 ※設置場所住所:川根本町久野郷954(三津間集落センター南側) 会場map

作品イメージ



川越し街道

夏池篤十山本直

エリア 川越し街道
設置場所 地図⑦ (十番宿)

夏池篤十山本直は、大井川上流で伐採された材木が島田の向谷まで河川により運搬された材木を解体する作品。今回は解体された材木を解体し、建物に変えていくプロセスを作品化する。大井川に散乱する流木で新たな川会所を制作。中には流木による運台越し・渡舟・お茶をたてる様をイメージしたオブジェを配る。

作品イメージ

ゆるかわふう+原正彦

エリア 福用駅
設置場所 福用駅舎

ゆるかわふう+原正彦は、発泡断熱材(スタイロフォーム)を用いたオリジナル技法「光彩り(ひかりぼり)」を考案。22年神戸ファッション美術館、23年福岡アジア美術館展覧会開催予定。原=建設的なバックグラウンドを基に物事を考えつつ、自身の派遣社員としての立場から、「人」という最も根本的な存在に着目した作品を制作。

作品イメージ

TAKAGI KAORU

エリア 抜里駅
設置場所 地図⑤ (天野邸)

粘土による器のほか、水引を使った立体造形をつくる。器とは有形無形のものを選ぶ(たたく)ことで、ものの変化や潜在的な物語を探ることができると考えられている。したがって器などにどまらず、さまざまなもの(ときには家屋や人の内面)のなかに器を見出す。自作の磁器を使ったパフォーマンスは、道具と環境の相互作用により、参加者が自身の内なる器の存在に気づく機会になっている。自作の器で食事を提供することで街中にさまざまな関係性と物語をうむスペース「ひととき」を主宰。器の可能性を追求し続ける作家。

作品イメージ

形狩りの衆

エリア 駿河徳山駅
設置場所 川根本町立 中川根第一小学校

形狩りの衆は「顔の家」プロジェクトのために、山本の呼びかけで集まった型取りの技術者集団で、地域住民とラフマスを製作するワークショップを通じて、そこに住む人々の存在を証明してアーカイブを目指すとともに型取り技術の伝承を試みる。

作品イメージ